

研究・調査報告書

報告書番号	担当
475	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Hazardous drinking is associated with a lower risk of coronary heart disease: results from a national representative sample. 過剰飲酒が冠血管疾患を減らすか；アメリカの代表的な試験から	
執筆者	
Le Strat Y, Gorwood P	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Addict. 2011 May-Jun;20(3):257-63.	
キーワード	
アルコール、飲酒量、冠疾患、心血管保護作用	
要旨	
目的： この研究は、飲酒量ごとの12ヶ月の冠疾患の発生率を調べた。	
方法： 2001-2002年のアルコールおよび関連疾患に関する国民疫学調査National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Condition (NESARC)参加者43,093名から、16,147名の非飲酒者、15,884名の適量飲酒者、WHOの性別の1週間当たりの許容量を超える9,578名の過剰飲酒者、1,484名の依存者を特定した。診断はDSM-IVによった。	
結果： 非飲酒者に比べて、適量飲酒者と過剰飲酒者は冠疾患のオッズが低く、依存者と非飲酒者のオッズには有意差はなかった。社会人口統計学、精神疾患、依存のリスクを調整した後も、適量飲酒者のみならず過剰飲酒者も冠疾患が少ない傾向が見られた。	
結論： 我々の研究では、適量飲酒者のみならず、一般的に危険だと思われる飲酒者でさえ、アルコールは心血管保護作用があるかもしれないことを示している。	